

# 岩手県感染症週報

令和6年第7週 (2月12日～2月18日)

岩手県感染症情報センター

## 第7週の概要

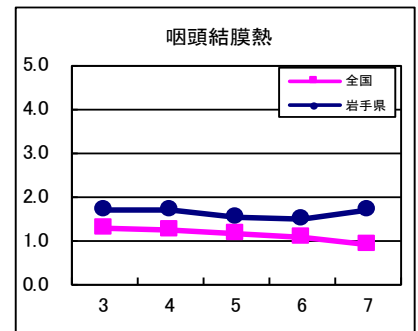
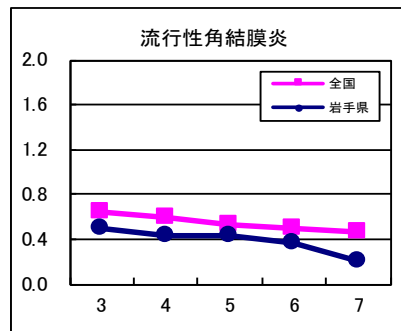
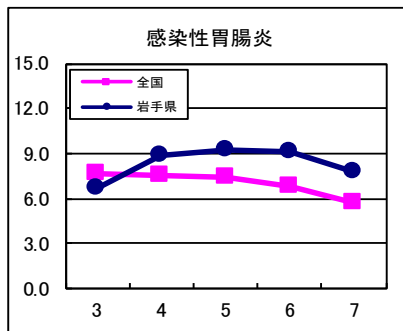
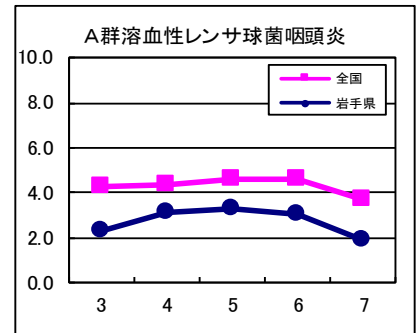
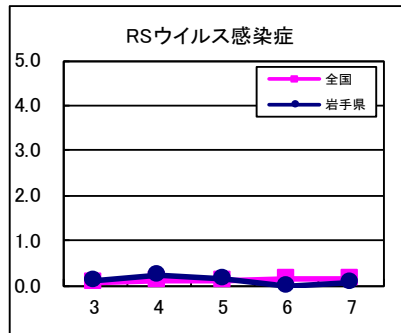
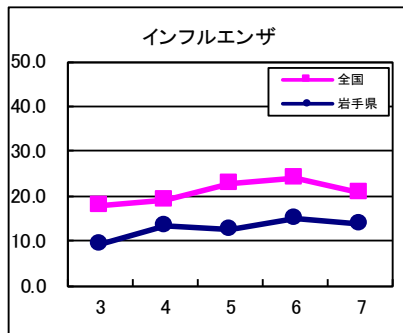
- 1 類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症
  - ・結核の報告が2例ありました。そのうち1例は潜在性結核感染症でした。
- 3 類感染症
  - ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例ありました。
- 4 類感染症
  - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
  - ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の報告が1例ありました。
  - ・後天性免疫不全症候群の報告が1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
  - ・インフルエンザは減少し、定点あたり患者数は13.80人となりました。中部地区で警報値(30人)を超えています。年齢層別では15歳未満が約8割を占めており、学校等休業措置が20件ありました。予防対策を徹底し、症状がある場合は、感染を広げないようにマスクを着用のうえ早めに受診しましょう。
  - ・新型コロナウイルス感染症は減少し、定点あたり患者数は12.40人となりました。県内のクラスターの発生は14件で、その内訳は、高齢者施設8件、医療施設5件、教育保育施設1件でした。高齢者や基礎疾患のある方は重症化リスクが高いためご注意ください。引き続き、手洗い、咳エチケット、ワクチン接種等基本的な感染予防対策の確認をお願いします。県は有症者の相談や受診先を紹介する「いわて健康フォローアップセンター」の運用を継続して行っています。
  - ・咽頭結膜熱は増加し、定点あたり患者数は1.68人となりました。県央、中部及び宮古地区で警報値(3人)以上となっています。発熱、咽頭炎、眼症状を主訴とする小児の急性ウイルス性感染症です。予防には、患者との密接な接触を避け、タオルは共用せず、流水と石けんによる手洗いを励行することが重要です。

「岩手県・新型コロナ対策  
パーソナルサポート  
(@iwatevscovid19)  
ID検索またはQRコードか  
ら友達追加



## 最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが異なることに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		3	4	5	6	7		
インフルエンザ	岩手県	9.39	13.15	12.57	15.10	13.80	↓	☆☆
	全国	17.72	19.20	22.62	23.93	20.64		
RSウイルス感染症	岩手県	0.10	0.21	0.15	0.00	0.05	→	
	全国	0.08	0.11	0.12	0.14	0.15		
咽頭結膜熱	岩手県	1.69	1.69	1.51	1.47	1.68	↑	☆☆☆
	全国	1.28	1.24	1.15	1.07	0.91		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	2.33	3.13	3.31	3.08	1.87	↓	☆
	全国	4.28	4.35	4.63	4.61	3.68		
感染性胃腸炎	岩手県	6.67	8.87	9.26	9.13	7.84	↓	☆
	全国	7.63	7.60	7.43	6.88	5.73		
水痘	岩手県	0.23	0.10	0.03	0.13	0.26	→	☆
	全国	0.15	0.13	0.14	0.14	0.12		
手足口病	岩手県	0.36	0.23	0.33	0.13	0.18	→	☆
	全国	0.17	0.20	0.22	0.19	0.17		
伝染性紅斑	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	→	
	全国	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02		
突発性発疹	岩手県	0.23	0.33	0.28	0.50	0.34	→	☆
	全国	0.21	0.20	0.20	0.18	0.19		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.15	0.03	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.15	0.00	0.05	0.05	0.08	→	
	全国	0.03	0.03	0.03	0.02	0.03		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01		
流行性角結膜炎	岩手県	0.50	0.43	0.43	0.36	0.21	→	☆
	全国	0.64	0.59	0.53	0.50	0.47		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	10.93	16.82	16.15	18.07	12.40	↓	☆
	全国	12.23	14.93	16.15	13.75	10.10		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.01	0.00		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.05	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.03	0.02	0.01	0.02	0.01		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.05	0.11	0.00	0.11	0.21	→	☆
	全国	0.08	0.07	0.08	0.08	0.08		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.00	-	-	-	0.00		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.01	0.02	0.01		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	10	7	11	10	11		
	全国	935	706	576	490	466		

【流行傾向の見方】

- 無印 : ほとんど患者が発生していません
- ☆ : 患者が発生しています
- ☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります
- ☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		3	4	5	6	7	累計	7	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 ( ) 内は潜在性結核感染症患者再掲	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1 (0)	2 (1)	15 (6)	187	1634
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	0
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	7
	腸管出血性大腸菌感染症	0	1	0	0	1	2	26	155
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	0	1
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	8	76
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	2	11
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	7
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	0	3
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0	0	0	1	52
	デング熱	0	0	0	0	0	0	2	19
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	2
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	0	0
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	4	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	0	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	1	1	0	0	3	23	227	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	1	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	岩手県					全国		
		(週) 3	4	5	6	7	累計	7	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	1	9	61
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	0	3	18
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	0	1	1	1	3	27	227
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	0	3
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	9	88
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	3	22
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	33	338
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	1	1	13	129
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	1	3
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	7	92
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	6
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	44	417
	水痘 (入院例)	0	0	0	0	0	0	4	42
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	1	1	0	0	0	5	143	1485
	播種性クリプトコックス症	0	1	0	0	0	1	0	20
	破傷風	0	0	0	0	0	0	2	9
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	0	0	3	19
百日咳	0	0	0	1	0	2	8	66	
風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	
麻しん	0	0	0	0	0	0	1	1	
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	

今注目の感染症

感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。毎年秋から冬にかけて流行し、その原因はノロウイルスやサポウイルスなどのウイルスが大部分を占めています。感染性胃腸炎の原因ウイルスは、手指や食品などを介して経口感染し、嘔吐、下痢、腹痛などを引き起こします。健康な人は軽症で回復しますが、子どもや高齢者は重症化したり、吐物を誤って気道に詰まらせて死亡することがあります。

全国の感染性胃腸炎の報告数は、例年は11月頃から増加して12月にピークを迎えます(図1)。

一方、県内の感染性胃腸炎の報告数は、全国と同様の流行形態をとる年とそうでない年があります(図1及び2)。2023年は第5週にピーク(定点あたり患者数9.93人)が認められました。今週の県内各保健所管内ごとの定点あたり患者数は図3のとおりです。

県内の集団感染事例は、2022年4月から2023年3月までに124例報告されました。内訳は、86例はノロウイルス、28例はサポウイルス、7例はサポウイルスとノロウイルス、1例はヒトパレコウイルス、1例はアデノウイルス、1例はロタウイルスによるものでした。また、2023年4月から2024年第7週までに68例報告されました。内訳は37例はノロウイルス、1例はノロウイルスとサポウイルス、2例はアストロウイルス、2例はサポウイルスによるもの、26例はその他でした。

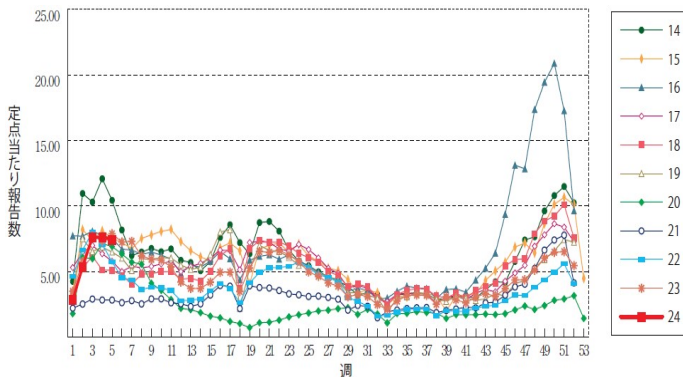


図1 全国の感染性胃腸炎の発生状況 (2014年～2024年第5週)  
(国立感染症研究所HPより)

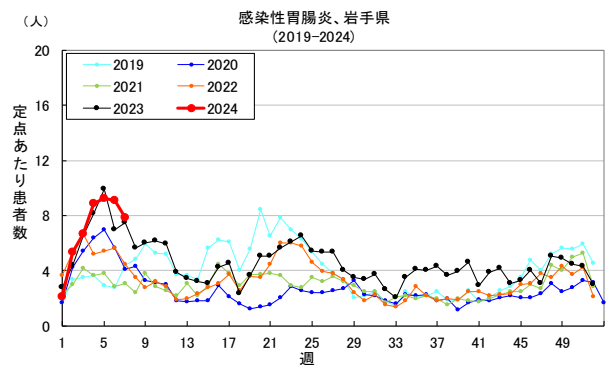


図2 岩手県の感染性胃腸炎の発生状況  
(2019年～2024年第7週)

今注目の感染症

感染性胃腸炎 (続き)

感染性胃腸炎の主な原因となるウイルスは感染力が非常に強く、少量のウイルスでも感染する特徴があります。学校や教育保育施設、老人福祉施設などの集団生活を営む施設では、感染予防対策の再確認が勧められます。

ウイルス性胃腸炎の予防方法は以下のとおりです。

- (1) トイレの後、調理前、食事前には石けんと流水で十分な手洗いを行う。
- (2) 調理する場合、加熱が必要な食品は85~90℃・90秒以上で十分加熱する。
- (3) 嘔吐した場合は、部屋の換気を十分に行いながら、マスクや使い捨て手袋を用いて片付け、嘔吐した場所や使用した器具を塩素系消毒剤で消毒する。
- (4) 嘔吐、下痢等の症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

感染性胃腸炎とは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/383-intestinal-intro.html>

ノロウイルスに関するQ&A (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html)

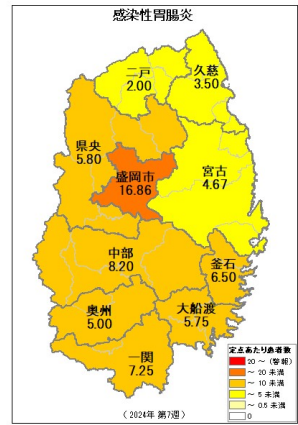


図3 第7週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土地数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする急性の呼吸器感染症で、毎年のように世界で流行がみられます。潜伏期間は1日~3日程度で、38℃以上の発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛などの症状が突然現れ、鼻水や咳などの呼吸器症状が続きます。

岩手県では、例年11月下旬から12月頃に流行入りし、1月から3月頃に患者数が増加します。2020/2021シーズンの報告数は患者実数(※注)で6人、2021/2022シーズンは同9人で、流行開始の目安である定点当たり患者数1.0人を上回ることなく低調でした。2022/2023シーズンの患者実数は14,355人で、第49週に流行入りし、第8週にピークとなりました。2023/2024シーズンは、例年より早く第40週に流行入りし、第49週にピークとなりました(図1及び2)。今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。

主な感染経路は、咳やくしゃみ、会話などから発生する飛沫による感染(飛沫感染)と、飛沫の付着物に触れた手指などを介した接触感染です。予防には、マスクの着用などの咳エチケットによる飛沫感染対策と、手洗いによる接触感染対策が挙げられ、この他にワクチン接種が効果的です。ワクチンによる予防効果が現れるまでに2週間程度かかるため、早めの接種が勧められます。接種を希望する人は、事前に医療機関にお問い合わせください。

(※注) 患者実数とは定点医療機関において報告された患者数

【参考】

インフルエンザとは (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html>

インフルエンザQ&A (厚生労働省)

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2022.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/kenkou/kekaku-kansenshou/infuenza/QA2022.html)

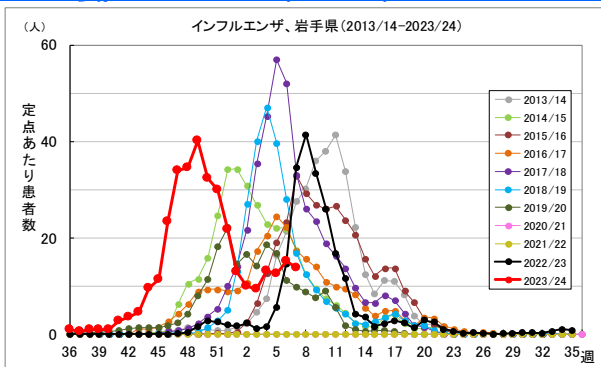


図1 岩手県のインフルエンザの発生状況 (2013/14年~2023/24年第7週)

図2 各シーズンの流行入り・注意報・警報を超過した週

シーズン	流行入り	注意報発令	警報発令	ピーク		
	定点あたり患者数	定点あたり患者数	定点あたり患者数	ピーク	定点あたり患者数	
2013/2014	1.0人	48	5	8	11	41.28
2014/2015	-	47	48	52	1	34.3
2015/2016	1	3	6	6	6	32.88
2016/2017	45	2	-	5	24.45	
2017/2018	48	1	3	5	56.98	
2018/2019	50	1	3	4	47.11	
2019/2020	42	50	-	52	22.06	
2020/2021	-	-	-	-	-	
2021/2022	-	-	-	-	-	
2022/2023	49	6	7	8	41.37	
2023/2024	40	45	47	49	40.06	

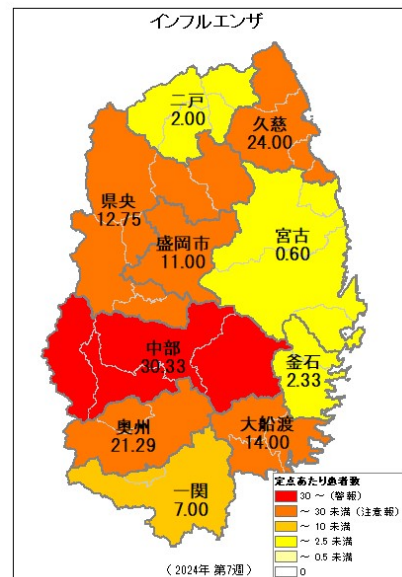


図3 第7週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土地数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の 数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主訴とする小児の急性ウイルス性感染症です。原因はアデノウイルスで、季節特異性が少なく年間を通じて検出されます。以前は夏期に流行が見られましたが、2003年から冬期にも流行のピークが見られるようになりました(図1及び2)。岩手県内の発生状況は図2及び3のとおりです。2023年に一部の地域で流行が見られ、第50週及び第51週にピーク(定点当たり患者数2.83人)が認められました。県内各地区の発生状況は図3のとおり、今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図4のとおりです。

咽頭結膜熱の流行を起こすのは、主にアデノウイルス3型です。ほかに4型、7型、2型、11型などがあります。

感染経路は飛沫感染や手指を介しての接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染が考えられます。プールを介した場合には、汚染した水から結膜への感染が考えられます。

潜伏期は5～7日と考えられており、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜炎、眼痛、流涙、眼脂などの症状が見られます。通常、眼に障害などは残りませんが、生後14日以内の新生児に感染した場合は、全身性感染を起こしやすく、重症化する場合がありますことが報告されています。

予防方法としては、患者との密接な接触やタオルの共用を避けること、流水と石けんによる手洗いやうがいがあります。ドアノブやおもちゃなどを塩素系消毒剤で消毒することも効果的です。

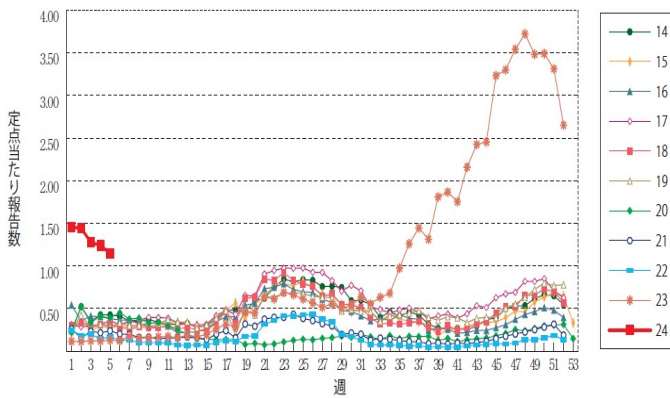


図1 全国の咽頭結膜熱の発生状況 (2014年～2024年第5週)  
(国立感染症研究所HPより)

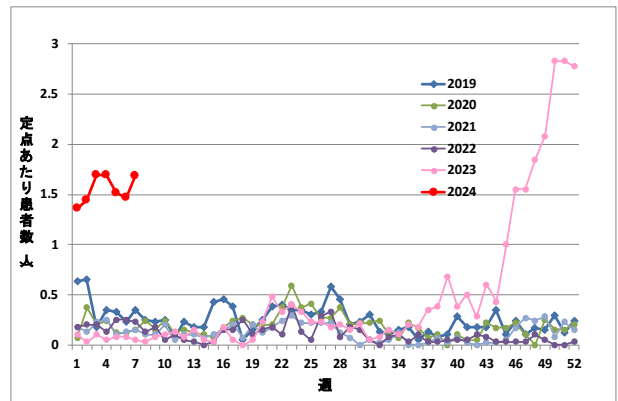


図2 岩手県の咽頭結膜熱の発生状況 (2019年～2024年第7週)

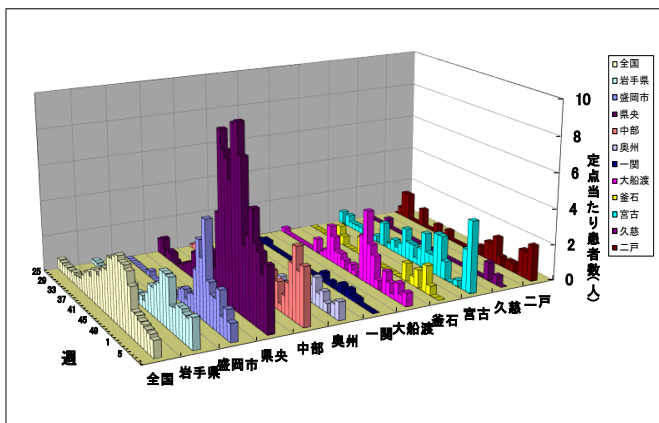


図3 全国、岩手県、盛岡市と各地区の咽頭結膜熱の発生状況 (2023年第25週～2024年第7週)

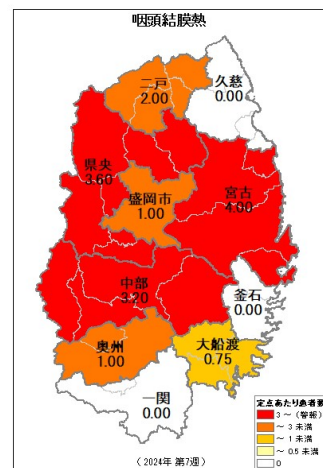


図4 第7週の保健所管内別の状況

【参考】

- 咽頭結膜熱とは (国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/323-pcf-info.html>
- IDWR注目すべき感染症 (国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/adeno-pfc-m/adeno-pfc-idwrc.html>
- アデノウイルス解説ページ-アデノウイルスの種類と病気 (国立感染症研究所)  
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/adeno-pfc-m/2110-idsc/4th/4326-adeno-virus-page2.html>

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。令和3年2月13日に指定感染症から新型インフルエンザ等感染症になり、令和5年5月8日からは五類感染症になりました。

国内の発生状況は図1（厚生労働省HPより）のとおりです。岩手県では、県内初の報告が2020年7月29日に2例あり、2020年は394例、2021年は3,101例、2022年199,642例の報告がありました。2023年は第18週までに34,982例が報告されています（図2は年齢層別）。

2023年第19週からは全数把握対象疾患ではなく、定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

第19週以降の県内の定点あたり患者数は、図3のとおり、第7週の県内保健所管内ごとの定点あたり患者数は図4のとおりです。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

※本文中の県内患者報告数は、該当年の第1週から最終週までの累計となります。詳細は国立感染症研究所HPの報告週対応表を御覧ください。

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>



<<<岩手県の電話相談窓口>>>

〇いわて健康フォローアップセンター

受付時間 24時間 全日（土日・祝日含む）  
TEL:0570-089-005 FAX:050-3730-7658

- ① 発熱等の症状が生じた場合は、まず「かかりつけ医」に電話でご相談ください。
- ② 相談先に迷う場合や「かかりつけ医」がない場合は、上記フォローアップセンターにご相談ください。
- ③ ①又は②での紹介・案内に従い「診療・検査医療機関」を受診してください。

詳しくは、岩手県の新型コロナウイルス感染症のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708\\_00001.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html)

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について

－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

図1 全国の新型コロナウイルス新規陽性者数（～5/7）

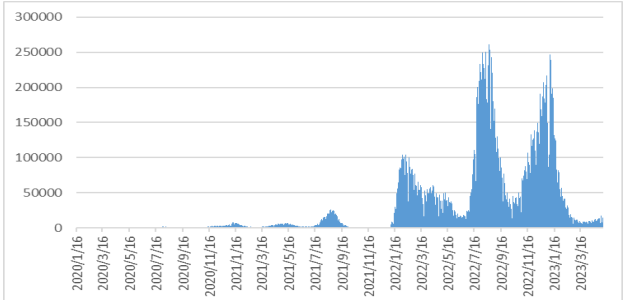
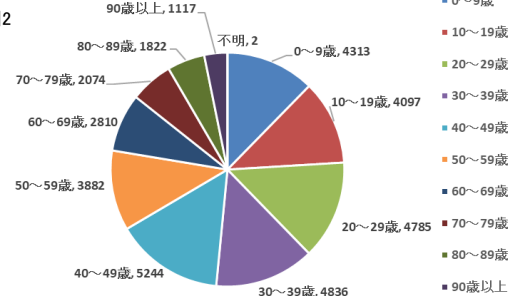


図2



岩手県における新型コロナウイルス感染症の報告数  
年齢層別 2023年第1週から第18週まで、N=34,982

図3 COVID-19、岩手県(2023第19週～)

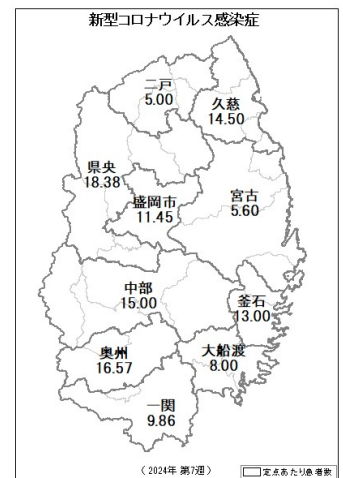
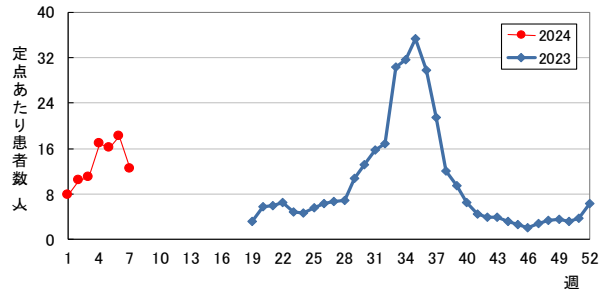


図4 第7週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。  
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

## 集団感染情報

- 新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年2月21日発表分)
  - ・岩手県 13件
  - ・盛岡市 1件
- インフルエンザによる学校等の休業措置について (令和6年2月13日から2月15日発表分)
  - ・岩手県 14件
  - ・盛岡市 6件詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。  
<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryou/kenkou/influ/1060843.html>
- 感染性胃腸炎の集団発生について
  - ・盛岡市保健所管内の高齢者施設 (利用者・職員50名以上)  
2月3日(土)から2月9日(金)にかけて、利用者9名、職員5名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設 (利用者・職員100名以上)  
1月29日(月)から2月9日(金)にかけて、園児13名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設 (利用者・職員150名以上)  
2月5日(月)から2月9日(金)にかけて、園児14名、職員3名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設 (利用者・職員100名以上)  
2月3日(土)から2月8日(木)にかけて、園児14名、職員2名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・盛岡市保健所管内の教育保育施設 (利用者・職員100名以上)  
2月6日(火)から2月9日(金)にかけて、園児12名に症状(嘔吐・下痢等)
  - ・二戸保健所管内の教育保育施設 (園児106名、職員24名)  
2月13日(火)から2月15日(木)にかけて、園児16名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者6名からノロウイルスを検出
  - ・奥州保健所管内の教育保育施設 (園児151名、職員30名)  
2月15日(木)から2月19日(月)にかけて、園児43名、職員2名に症状(嘔吐・下痢等) 有症者3名からノロウイルスを検出



## 病原体検出情報

- ・インフルエンザ患者の咽頭ぬぐい液からインフルエンザウイルスAH3亜型を1件及びB型ビクトリア系統を2件検出しました。

## 医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

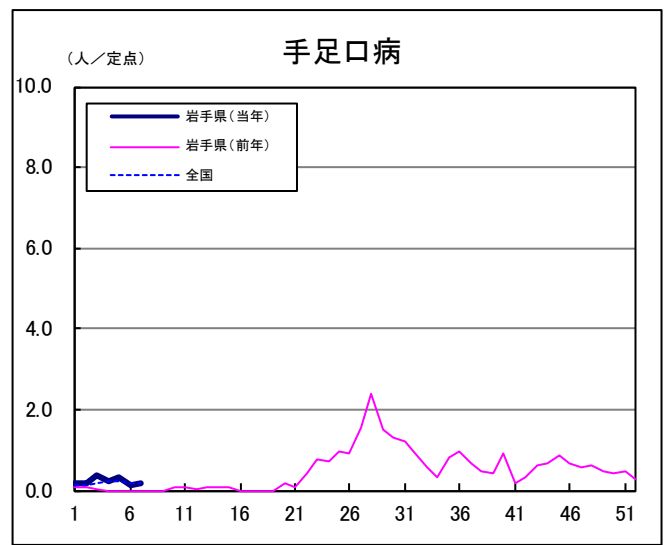
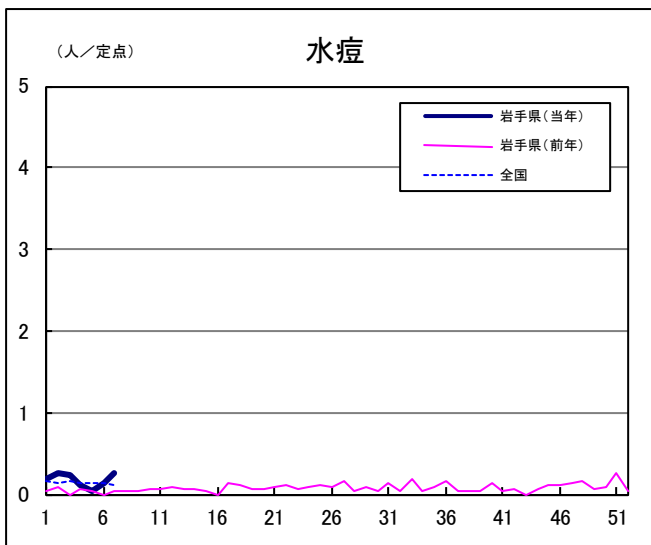
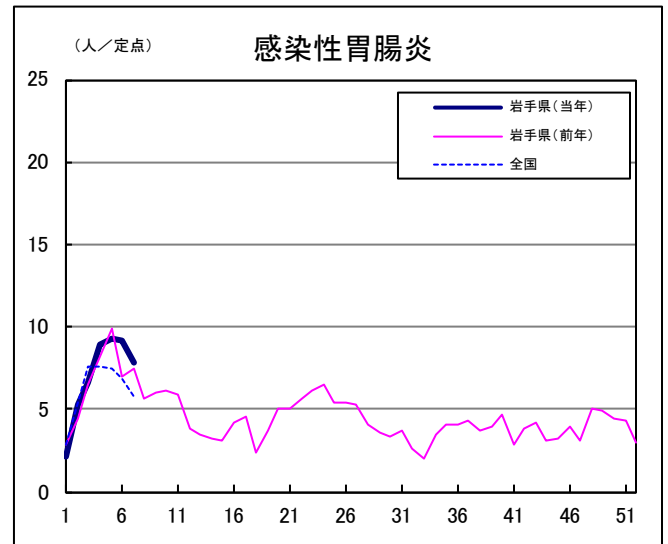
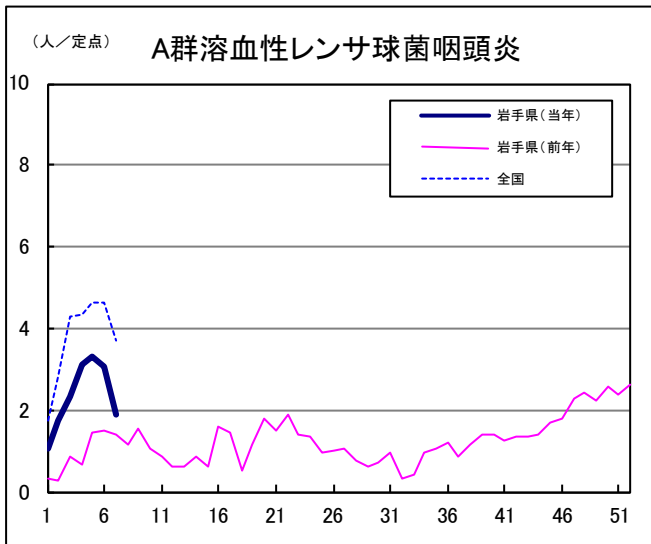
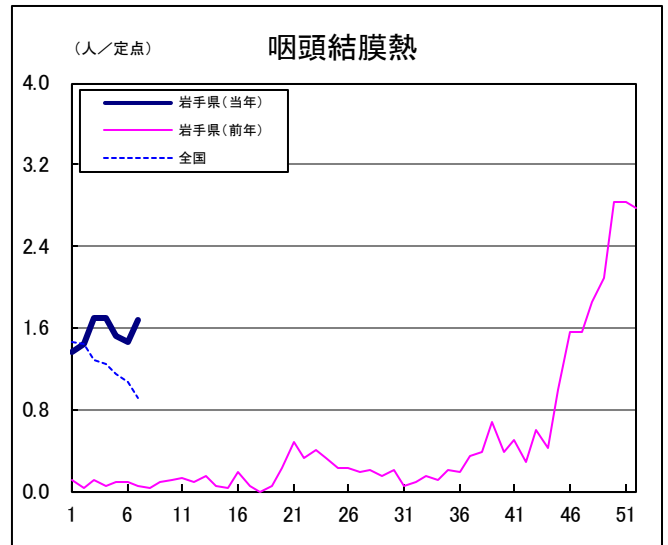
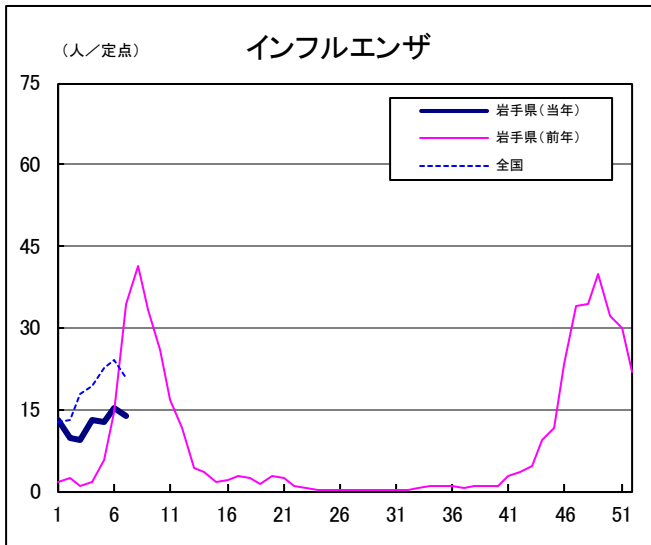
## Q & A

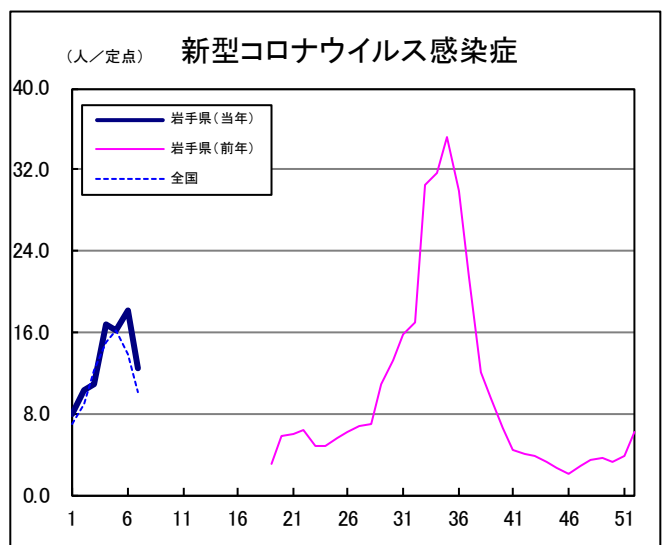
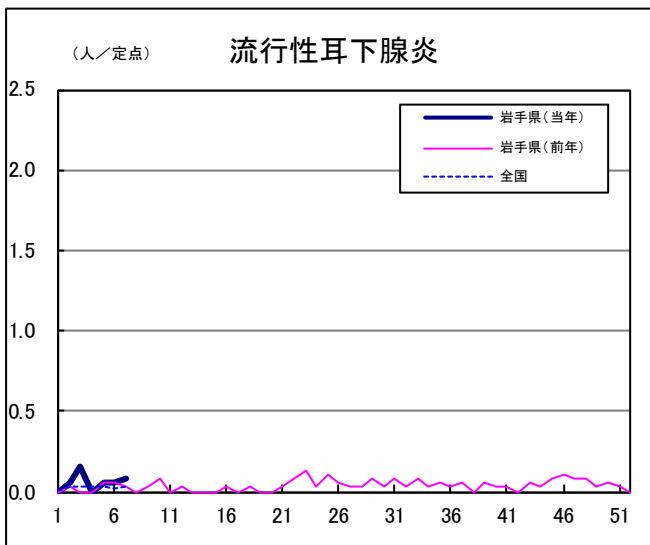
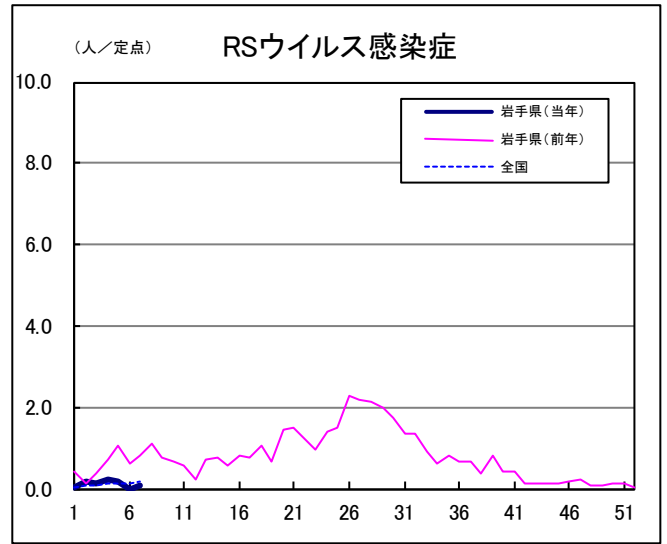
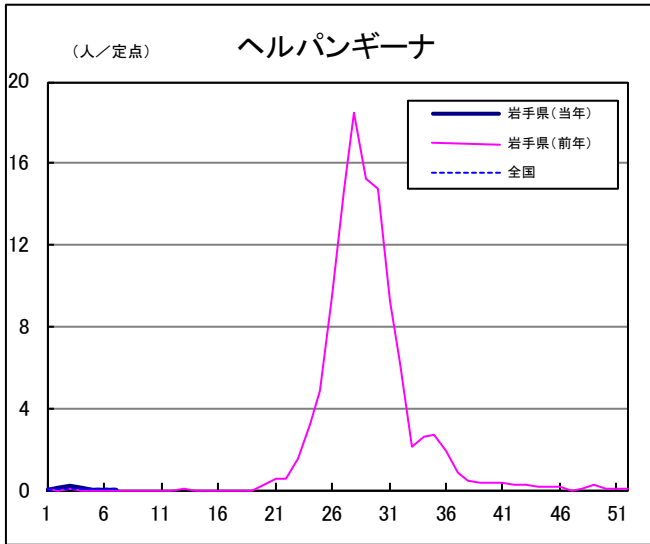
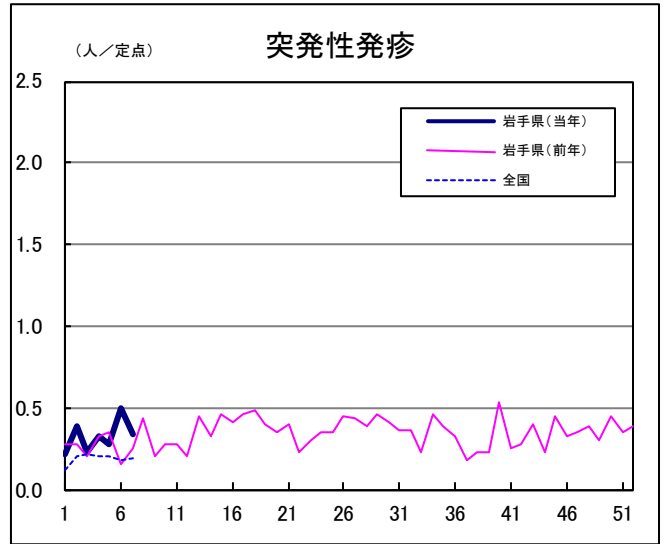
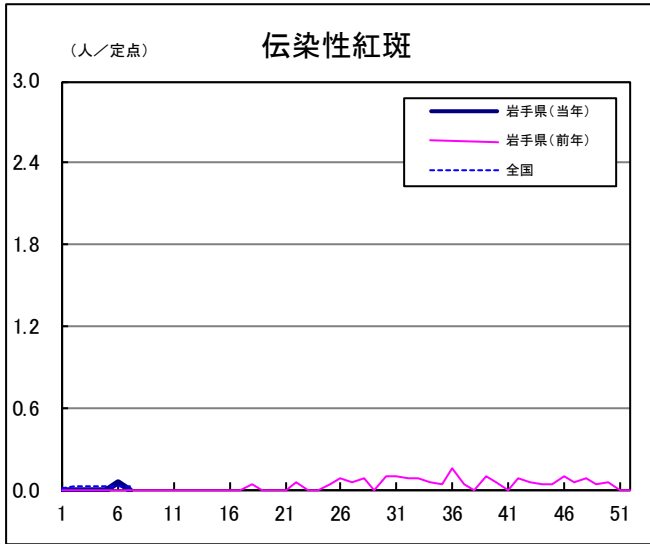
読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

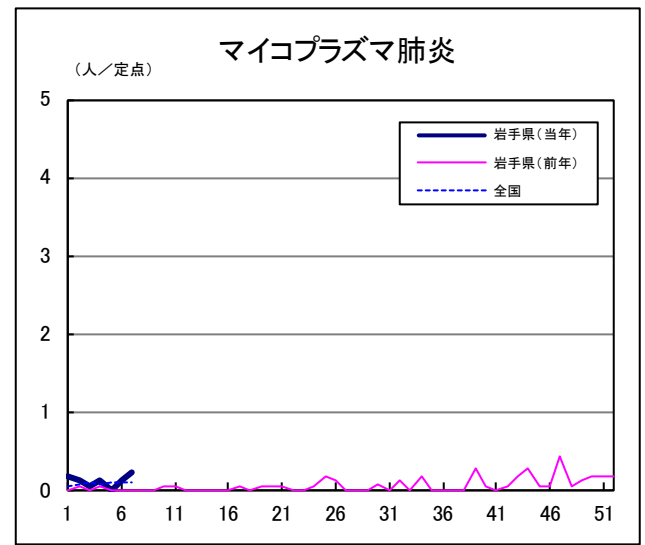
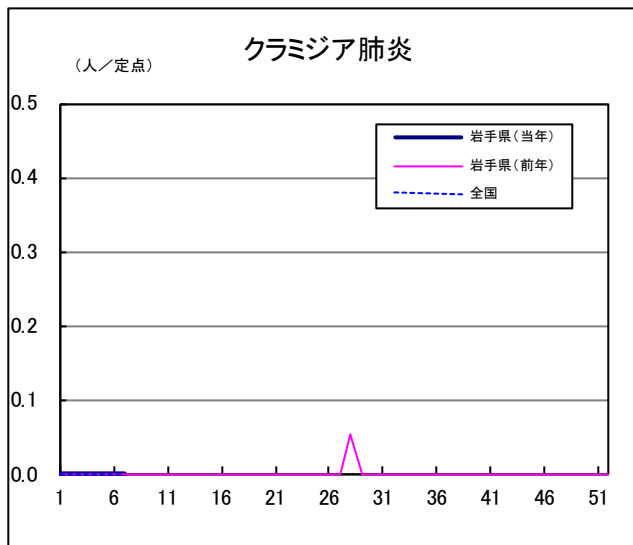
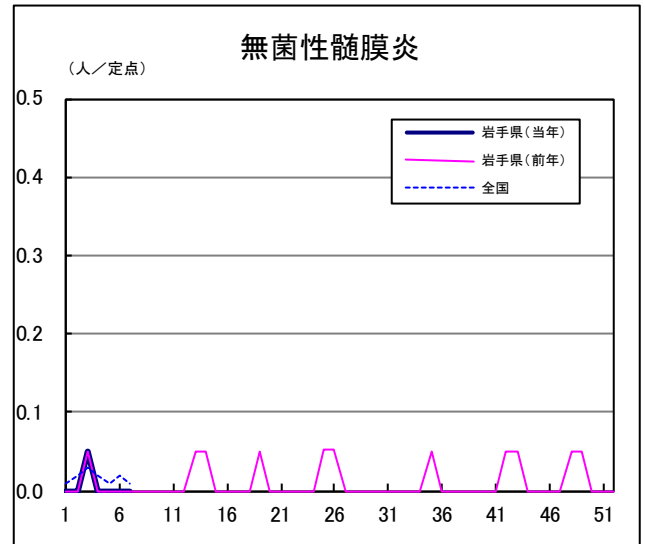
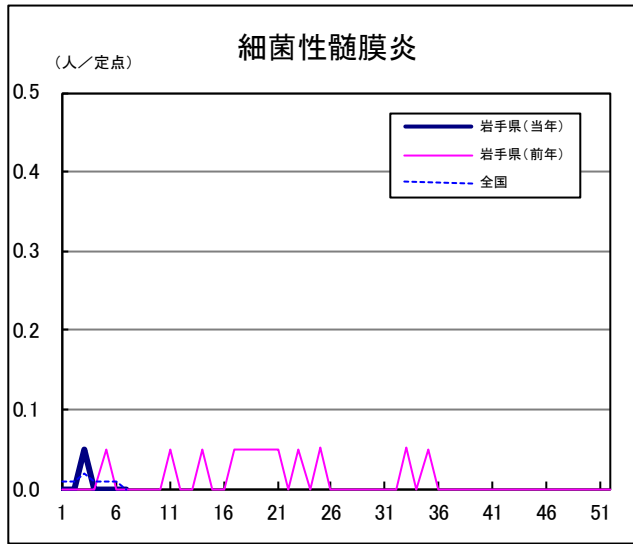
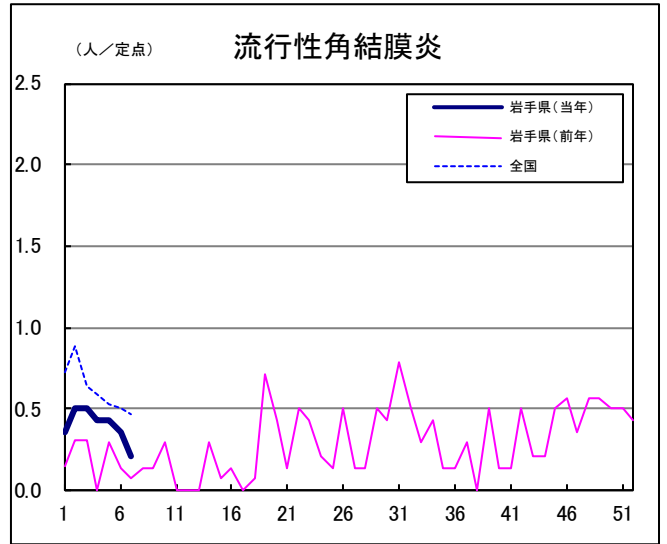
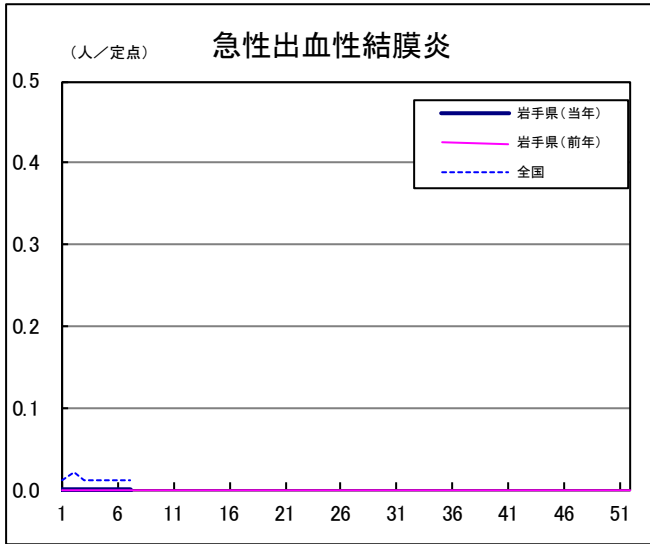
医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。  
岩手県感染症情報センター (岩手県環境保健研究センター保健科学部内)  
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16  
TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667  
E-mail: CC0019@pref.iwate.jp



疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	60	38	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	8	5	2	1
中部	9	5	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	2	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第7週 令和6年2月23日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター  
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター  
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>